

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスすまいる塾				公表日	令和7年 5月 21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		室内でボール遊びができるほど広々使えるスペースになっています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3		・ サービス提供時間や利用者がある時間は必ず資格者2人を配置しています。 ・ 多動でどんな行動をとるか分からないような常に見守りが必要な子や支援の度合いが多い子に対してはマンツーマンで支援しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		・ 来所してからすることや帰りの会までのスケジュールなど、先の見通しを持ちやすいようにイラストを使って視覚的に分かりやすいよう環境を整えています。 ・ 子どもが怪我をしないよう全て引き戸にし、床も段差をなくしバリアフリーにしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・ 支援終了後に毎回掃除をして、常に清潔を保っている。車内も送迎へ行く前に掃除をしています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		クールダウンするときや集団が苦手な子どもが落ち着いて過ごせるよう個別の部屋を使用できるようにしたり、室内マットを用意して空間を仕切れるようにしています。		
	業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3		毎日職員ミーティングを開き、スケジュールを立てたり、前日の支援の振り返りをしたりなどの情報共有を行っています。	
7		保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	2		今年初めて評価表を実施したため、今後それを元に業務改善に努めていきます。	
8		職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		職員ミーティングで支援等において気になったこと困ったことなど聞く時間を設け、業務改善に努めています。		
9		第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3			
10		職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		支援に関する指導を適宜行い、職員全体の資質向上を図っています。	職員の出勤時間により研修できる時間が限られているため、研修の計画を立て、事前に研修時間を確保していきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		2025年2月に支援プログラムを作成、リタリコ内に公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		アセスメントを細かく行い、利用者と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		利用者の状態や特性を全職員と共有し、どんな支援が必要か、何を目標に支援していくか、気をつけることはなかなど個別支援計画の原案をもとに担当者会議を開いて検討し、共通理解を促しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		職員が個別支援計画をいつでも確認できるようにしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		活動内容を考える担当者に案を出してもらい、その活動内容が来所する利用者の状態に合っているか職員全員で検討しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1	来所する子どもに合わせて活動内容を考えたり、季節の活動を取り入れたりして固定化しないように努めている。	活動内容が似たようなものになってしまうときがあるため、幅を広げるための情報を仕入れています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援開始前に職員ミーティングでその日の支援内容や役割分担について打ち合わせを行い、スムーズな支援ができるよう努めています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	2	職員の退勤時間により当日にできたりできなかったりするため、できなかった場合は翌日の支援前に必ず振り返りをしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		利用することに個人記録を徹底している。支援に関する改善内容があれば、職員会議にて話し合い、支援の改善に努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		6ヶ月に1度モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		利用者の状況を把握している管理者が会議に出席している。また相談支援事業所と関係機関と電話や面談により連携をとっています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		常時下校時刻は把握しています。必要であれば、送迎時や電話にて学校との情報共有、連絡調整を行っています。また、参観日に出席し、学校での様子を直接確認しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		就学前に児童発達支援事業所に伺い、直接支援の様子を拝見しました。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3		児童センターに連れて行っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	2		参加できる時間を確保できるよう検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3		発達障害に対する理解を深め、家庭での対応に活かせるよう、家族への研修の機会や情報提供を検討していきます。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		保護者の方の悩み事に関し、電話や送迎時、また実際に利用者宅へ伺ったり、支援を参観してもらったりしながら助言と支援を行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		3		保護者会は開催できていないため、今後検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		苦情受付の体制手順を玄関に掲載したり、重要事項説明書により苦情受付に関する内容を記載し、契約時に説明している。相談や申し入れがあった場合、電話にて迅速かつ適切に対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	1	特別な活動や行事を行う際は来所する利用者の保護者に事前に連絡している。活動内容をブログにて発信している。	来所する利用者の保護者にしか特別な活動内容が伝わらないため、今後は毎月の通信だよりを作成し保護者に送ることで全保護者に発信できるよう努めていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報記載された書類などは鍵付きキャビネットにて保管し、毎回鍵をかけて閉鎖しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	2	敬老の日のプレゼントを子どもたちが製作し、近所の住民に渡しに行っています。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		マニュアルを策定し、全職員にマニュアルに目を通してもらい周知をしています。安全計画に基づいて研修・訓練を実施しています。	職員には周知できていたが、利用者家族に周知できていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		自然災害BCPと感染症BCPを策定し、訓練を行っています。非常災害に備えた避難訓練も行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2	1	聞き取り時やフェイスシートにより利用開始前に服薬状況や配慮すべきこと等について確認を行っています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		クッキングによる食事やおやつ提供があるため、利用開始前に食物アレルギー調査票に記入をしていただき、保護者にアレルギーの有無を確認をしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	1	ヒヤリハットな事例があった場合は、事業所内で共有かつ職員間で検討し、再発防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切に対応をしているか。	3		虐待防止に関する研修を行い、どのようなことが虐待に当たるのかを学んでいます。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	1	身体拘束に関する研修を行い、どのような場合に身体拘束を行って良いのかを周知し、共通認識させています。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスすまいる塾		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年4月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年4月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年5月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立の促進や感覚刺激を与えるため、いろいろな活動や取り組みをしている。また、子どもの状態に合わせた活動内容や支援を考えて、試行錯誤しながらよりよい支援ができるよう改善に努めている。	・事業所の敷地内に畑を耕して野菜を植え、収穫する体験を行っている。 ・室内が広く、思い切り体を動かす活動を安全に提供している。 ・クッキングの活動を定期的に設け、調理器具の使い方に慣れるや調理過程を学ぶ、作る楽しさ・達成感などを味わえるようにしている。 ・使った食器類やお弁当箱は自分で洗って拭いて片付けるよう支援している。	公共交通機関の使用や公共の場に出かける活動など長期休暇時を中心に行っていく。
2	計画した曜日以外でも利用を受け入れられる対応力がある。	利用者の曜日を固定した方が運営はしやすいが、計画日数が支給日数よりも下回った場合、余った日数を祝日や他の曜日に入れてほしいという保護者の要望に応えるため、1日の定員を考慮しながら全利用者の利用日を毎月調整している。	
3	保護者の困り感である学習に対して支援ができることで、成績が上がるだけでなく、日常生活においての意欲を上げることにもつながっている。	学習を一定時間するという取り組みをすることで学習習慣をつける支援をしている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	前もった活動計画を立てられていない	・保護者の要望に応え利用日を変更することが多いため、一日の利用者の変動が大きい。 ・小学生と中学生の利用者が混合しており、中学生利用者の部活の予定が前日に変わることが多い。	朝から利用する者と午後から利用する者とで分かれた場合、なるべく活動に全員参加できるよう活動内容や活動時間を調整する。
2	避難訓練、活動や取り組み内容などの周知	ホームページがない。	通信だよりなどを利用して周知していく。
3			